



平成灯台守

2019. 4 月号

発行/御前埼灯台を守る会 事務局/御前崎市白羽 1216

御前埼灯台の概要（現在）

初点灯	明治7年5月1日 (西暦1874年)
所在地	御前埼 1518番地
位置	北緯34度35分45秒 東経138度13分32.6秒
構造	塔形レンガ造
塗色	白色
灯質	単閃白光 毎10秒に1閃光
実測光度	56万カンデラ
光達距離	19.5海里(約36km)
高さ	地上～建物頂上 22.4m 水面～灯火 54m
レンズ	3等(大型)フレネルレンズ2面(高さ1.57m)
電球	メタルハイドランプ MT250E-W/PG
電源	購入商用電力(非常用発電機)



◇御前埼灯台ここがすごい

- これまでに見た文献や志摩市の灯台サミット講演等からみると、御前埼灯台の特徴は、
- 1 日本初のフランス製回転式八面閃光レンズ(高さ2.59m)を使用した。
 - 2 日本で2番目のレンガ造灯台。(最初は三重県菅島灯台、後続に犬吠埼、尻屋埼など)
 - 3 日本初のレンガ二重構造灯台。
 - 4 現存する最古のレンガ造吏員退息所。
(菅島灯台の建物は明治村に移築)
 - 5 海上保安庁が指定した明治生まれの現役Aランク保存灯台23基のひとつ。
 - 6 経済産業省近代産業遺産認定。
 - 7 日本の灯台50選のひとつ。
 - 8 登れる参観灯台16基のひとつ。
 - 9 徳川幕府が設置した最初の燈明堂(1635)。

- 10 木下恵介監督映画「喜びも悲しみも幾歳月」ロケ地9カ所のひとつ(戦時中及び娘夫婦が乗った客船を見送るクライマックスシーンの2回登場)。
- 11 アニメ「大空魔竜ガイキング」秘密基地。

御前埼灯台の歴史 No.5

ひなびた漁村に西洋文明躍り込む

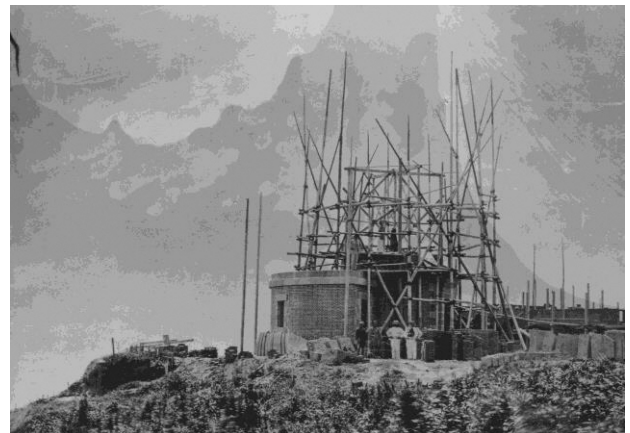
明治5年5月26日御前埼灯台の建設工事が始まった。工事監督は日本政府が招聘したイギリス人技師、リチャード・ヘンリー・ブラントン。これに日本側は人事や会計等普請奉行的な役目を担う今武高光、現場監督の村山清弘の役人を出張させた。

近郷近在から石屋、大工、左官等が駆り集められ、岬には飯場や長屋が建ち並び、居酒屋まで出来るという賑わいだったという。

基礎工事は、高台の突端に建設位置を定めると、6m程深く地面を掘り、岩盤上に砂利や石片を投げ入れてセメントで固めた。

灯台本体に使う石材は対岸の伊豆半島から数十隻の船で運び、灯台下海岸から30m余ある高台までロクロを使って巻き上げた。一つの石に百人もの人足が掛かったそうである。

外壁に用いたレンガは土質の都合で、8kmほど離れた地頭方村(牧之原市)で焼き、船や人が担いで運搬した。当時御前埼村の庄屋だった松林家に人足帳の記録が残されている。



こうして灯台は伊豆石やレンガを適宜組み合わせながら積み上げられ、まるで生き物のように空高く伸びて行った。

<昭和11年の下村徳一氏の記録を参考>